埼玉サイバーセキュリティ推進会議（事務局：埼玉県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課）

S．C．S．C通信

H30．3．8
NO．45

★1月及び2月中のサイバー空間における脅威ニュース★

1月及び2月中に報道や公表されたサイバー空間における主な脅威情報をまとめましたので、サイバーセキュリティ対策の参考にしてください。

GMOペパボ株式会社が運営するネットショップの顧客情報が流出

1月26日、GMOペパボ株式会社のECサイト構築サービス「カラーミーショップ」のウェブサイトが不正アクセスを受けて、個人情報が最大で8万9000件流出した可能性があると報じられた。

「カラーミーショップ」は、GMOペパボ株式会社が管理するウェブサイトにおいて提供されている顧客情報管理、決済、配送等の機能があるECサイト構築サービスで、多数のネットショップにおいて利用されているとのこと。

流出した可能性があるのは、「カラーミーショップ」を利用して運営しているネットショップの顧客のクレジットカード番号やセキュリティコード、住所、氏名等で、1月26日時点で、情報の不正利用は確認されていないとのこと。

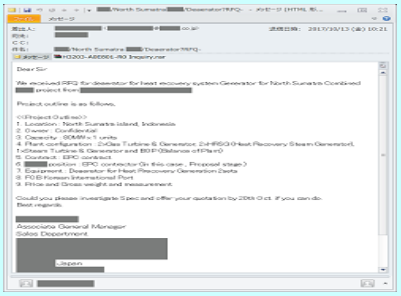
「カラーミーショップ」における情報流出のお詫び文
（出展GMOペパボ株式会社ホームページ）

1年以上継続している国内プラント関連事業者を狙った標的型攻撃

1月27日、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）の調査結果から、国内のプラント関連事業者を狙ってウィルスメールを送りつける攻撃が1年以上前から繰り返されていたことがわかったと報じられた。

IPAが、サイバー攻撃に関する情報共有のために重要インフラなどの11業界とつくる「J-CSIP」に参加の組織から提供された情報を分析したところ、昨年10月から12月にIPAが標的型メールとみなした164件中、156件がプラント関連事業者を狙ったもので、類似のメールの分析から少なくとも一昨年の12月ころから攻撃が行われていることが分かった。

メールは、英文で海外の企業を名乗り、化学プラント等で使用する資機材の見積もり依頼を装った内容が多く、実在する事業者名や専門用語を使用するなど巧妙な手口であり、数十種類の文面が確認されている。



サイバー情報共有イニシアティブ運用状況
[2017年10月～12月]公開レポート掲載のメール
（出展：IPAホームページ）

スマートフォン上で動作するウィルス「Skygofree」

Androidスマートフォンで動作するウィルス「Skygofree」について、コンピュータセキュリティ会社のマカフィーがその調査結果を報じている。

同社の調査では、電話帳、SMS、通話履歴等のユーザ情報や端末情報の収集のほか、写真撮影、録音などの機能や端末内で実行されている「LINE」などのアプリに関する監視機能などがウィルスに実装され、さらに流通している端末のモデル名等に関する情報も内部に記録されているとのこと。

ウィルスに記録されている端末情報は、日本で流通している端末に関する情報が半数を占めているため、同社は、日本のユーザを標的にしている可能性が高いとして注意を呼び掛けている。

（出展：マカフィー公式ブログ）

被害防止対策

- OSやソフトウェアを最新版に更新する
- ウィルス対策ソフトの定義ファイルを最新の状態に保ち、適切に運用する
- アプリは、確認後、必要な場合のみインストールする
- アプリのアップデートの際は必ず配信元を確認し、インストールする
- 不審なメールは開かない

STOP 立ち止まる | THINK 考える | CONNECT™ 楽しむ